## 古谷湿地に対する今後の考え方

古谷湿地は荒川の旧河川敷で、市内で唯一「湿地」と名がついた場所です。そして、川越市緑の基本計画において、伊佐沼やびん沼、寺尾調節池と並び、『親水空間としての利用を推進すること』が重点の一つとして掲げられ、『ふれあいの水辺拠点の整備』としての機能の他、多様な生き物にとって良好な生息の場でもあり、その水辺環境の保全に努めることとされています。

今後の考え方として、市は、「貴重な親水空間である古谷湿地は、エコロジカル・ネットワーク*[1]の核の一つとして水辺環境の保全に努める他、その活用方法について、調査研究していきたい」と答え、引き続き計画に沿って進めていく考えを示しました。

*[1] エコロジカルネットワークとは、野生生物が生息・生育する様々な空間をつなげる生態系のネットワーク。

南東側から見た古谷湿地

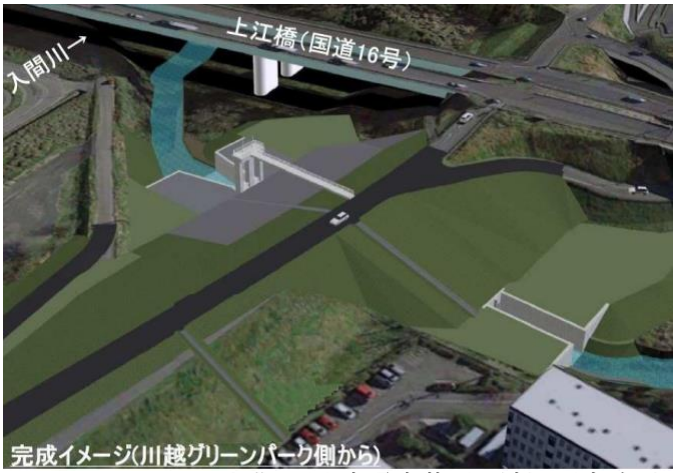
湿地帯は、生物多様性に欠かせないだけでなく、森林の2倍の$CO^2$を吸収し、スポンジのような働きで雨を吸収する自然の緩衝材とも言われている他、農薬や殺虫剤等の汚染物質を浄化する役割も担っています。

しかし、東京・千葉・埼玉の湿地は100年間で90%以上減少している（多くは人の開発行為のため）のが現状です。

## 入間川古谷樋管改築・堤防かさ上げ工事

入間川右岸堤防、国道16号への接続部は、JR川越線鉄橋付近と同様、周辺部より低いままとなっていましたが、この工事によりかさ上げが完了すれば、越水の危険ヵ所が一つ減ります。

合わせて、老朽化していた古谷樋管が改築され、治水安全度の向上がはかられます。




出典：国土交通省荒川上流河川事務所

## キャンプスペース整備 ～ 令和8年度オープン予定 ～

伊佐沼北側に位置する農業ふれあいセンター周辺の整備事業は、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」のプロジェクト一つとして、掲げた「蔵inガルテン・川越」事業の一環で、農業者の資質向上と市のグリーンツーリズムの拠点整備を行う事業です。

「まち・ひと・しごと創生総合戦略」とは、2014年9月から政府が進めてきた地方創生の政策で、地域の強みを生かし、自律的で持続的な力強い地方の創生を目的としています。

これまで、グリーンツーリズム拠点施設（農業ふれあいセンター）の改修やバーベキュー広場の開設、駐車場や市民農園の拡張等の事業が進められ、12月議会において、キャンプスペース用地の取得議案が提案された他、井戸水を利用した親水目的の『せせらぎ水路』などの整備予定の方向性が示されました。

今後の体験型観光の推進や同地域の活性化が期待されます。

## 訂正とお詫び

グリーンズ川越92号の表面下段の平成24年度決算額の数字に誤りがございました。

正しくは96,802,642,000円とするべきところを、96,802,642円とし、下三桁の000が抜けてしまいました。訂正してお詫びいたします。申し訳ございませんでした。